

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101386		
法人名	社会福祉法人青照会		
事業所名	グループホームホーム グットライフ熊本駅前(いちょう)		
所在地	熊本市西区春日2丁目1番24号		
自己評価作成日	平成30年11月5日	評価結果市町村受理日	平成31年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所がオープンし、現在6年目を迎え、日々、職員の質の向上に取り組んでいます。また、施設内、外の研修や月1回のユニット会議において、入居者様の様々な現状の改善や職員がユニットで困っていること、普段言えないことも、ユニット会議の場で意見が言い合えるように努めています。また、入居者様と一緒に作成した飾り物も雑誌に取りあげられ、御家族や見学者からも好評を得ています。
平均年齢88.5歳となり、認知症の症状も様々で対応が難しくなっていますが、グットライフ熊本駅前グループホーム職員全員が理念に沿って、これからも、その人が望む暮らしや意向を支援していきたいと思えます。

白川や熊本の拠点である駅を眼下に望みながら、「肥後りんどう」「肥後いちょう」と命名された双方のユニットでは、職員が工夫しながら一人ひとりの入居者が自分らしく生活できるよう日々のケアに取り組んでいる。建物最上階にあるため、気軽に戸外に出る機会は難しい点もあるが、屋上に上がり地域の花火大会を見物したり、階下の交流室でのイベントに参加するなど、建物内でも外出の気分を味わえるように努力している。また、神社参拝や花見、こいのぼり見物をはじめ車両を使い、季節の外出にも取り組んでいる。これらの外出や入居者に好評の栄養課による毎月のおやつバイキングなど日常の取組はユニットごとにエレベーター前の壁に写真で紹介されており、家族との会話のきっかけにもなっている。今後も駅前という立地や法人の機能を活かしながら、ホームに出来る支援を継続していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を掲示し、いつでも目に入るようにしている。グループホームの理念はフロアの壁にも掲示し、「笑顔あふれる」場所になるように実践している。	法人理念とともにホーム独自の理念を各ユニットや、双方をつなぐ廊下に掲示し、来訪者へ向けても啓発している。職員の法人内異動や退職に伴う入れ替わりがあった中で、原点に立ち返り職員会議の中で検討する機会を持ち、同時に現行の理念を継続することを申しあわせている。理念に「地域」という文言こそないものの、職員は地域の中で暮らす重要性を認識し、意識して理念をとらえる様に心掛けている。	会議の中で更に理念をかみ砕き、「自分らしく生きる」とはどのようなことか、一人ひとりの入居者にとって自分らしさとは何かなど、踏み込んだ話し合いに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事(夏祭り・敬老会・秋まつり)など。また、歌声サロン、ギター演奏会、三味線演奏会、春日校区の夏祭り、どんどや、地ぞうまつりなどに参加し交流を深めている。	この秋には運営推進会議での情報から、白川沿いの花火大会を数名の家族と共に屋上から見学するなど、地域情報が活かされている。開所時から続く法人行事や地域の祭りに参加し、中でも高校生による“白梅太鼓”は入居者が手拍子を取りながら喜ばれた様子が記録されている。多彩なボランティア訪問が実現し、法人が運営する専門学校生による行事の際のホローや、大掃除の手伝いなどホームには有難い交流も継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、外部評価の資料なども掲示し、家族などが見れるようにしている。また、入居者様の普段の様子などを写真に掲示したり、春日ぼうぶら祭りボランティア支援などにも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議では貴重な意見やアドバイスをいただいている。入居者様の普段の様子を写真に取り入れて視覚的にも分かりやすくし、動画でも敬老会の様子や夏祭りに行った時の様子も確認していただいた。また、民生委員の方々にも、グループホームの様子を今年の8月の運営推進会議の時に見学していただいた。 運営推進会議で地域の行事の提供があり、入居者様の参加ができています。	運営推進会議には以前より地域の各校区代表者が参加するなど、地元の協力を支えられ定期開催が実現している。地域情報が入居者の外出や行事参加を後押しし、アクシデントやヒヤリハットについて詳細に報告することで、運営の透明性を図り、参加者からの意見を広く収集している。前回の外部評価結果を受け、管理者以外の職員が会議に同席し、事前に民生委員にホーム内を見てもらうなどの改善が図られている。	熊本駅を中心とし古くからの地域性が運営推進会議に活かされ、参加者の多い会議である。、今後も地域との繋がりを運営に反映し、活発な意見交換の場となることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	熊本市ボランティア協会の支援などを受けて、協力していただいている。その他にも緊急時の避難場所としての受入れ施設や熊本市介護保険サポーターポイント事業受け入れ施設にもなっている。	運営推進会議に参加する地域包括に寄せられた外部意見を共有し、会議内で報告してホーム運営に反映させている。市のボランティア協会による行事支援や傾聴ボランティアの来所が入居者の生活を豊かに支えている。管理者は事故報告や書類提出などで行政を訪れ、友好的関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会に参加したり、手・足の拘束、入居者様に対しての言葉遣いなどを意識し、ケアに当たっている。	職員は法人研修で身体拘束への認識を深め、ホーム会議や日々のミーティングで事例を通し、拘束や虐待について考えを出し合う機会を持っている。夜間帯にセンサーマットを使用する入居者がおられるが、家族への説明と承認を得て実施している。高層であるため自由に外部へ出る事には無理があるが、入居者は互いのユニットを行き来し、お隣さんとして交流している。	センサーマットについては、今後も必要の可否を家族へ説明したり、不要になった時点で使用をやめるなどの対応が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や日々のケア時にボディチェックを行い、虐待を思わせるような傷がないか注意を払い、虐待防止に努めている。また、ユニット会議や身体拘束・虐待防止委員会の勉強会に参加し、職員同士で内容を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様が数名おられるので、成年後見制度の理解を職員全員で必要性を考えながら支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学や重要事項説明を実施し、その後、個人面談で契約を締結している。入居後、3カ月に1度ケアプランを見直し、その他利用に関しての説明(入居時の施設利用料金について等)を行っている。その際は、御家族に十分納得していただけるように心がけている。また、介護保険改定後の際も説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議、面会時などで、意見・要望があった時には、ユニット会議で議題に挙げて各職員へ周知し、改善を行っている。また、1Fにも意見箱を設置している。	職員は入居者と一緒にゆっくり過ごす時間を持つよう努めており、その中で要望などを聞き取っている。家族の意見や要望については、来所時や電話など遠路なく出してもらえよう伝えている。また、運営推進会議に参加された家族からも、意見などを確認している。意見や要望などがあった際は、職員会議や申し送り時など早急に話し合いの機会を持ち、サービスの向上に繋げている。また、地域包括などに寄せられた意見等も運営推進会議の中で報告されている。	食事に関しては栄養課によって満足度調査が実施されている。今後は家族に対しても職員間で内容を検討したケアに関するアンケートの実施も有効かと思われ、取組に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を月1回必ず行っており、自分の意見や他職員の意見を聞く機会を設けている。	毎月のユニット会議を中心に職員の意見や提案を出し合い、運営やサービスの向上に活かしている。管理者は共に業務に関わり、職員や入居者の思いを共有している。今後も職員がやりがいを持って業務にあたる事が出来るよう、会議や個人面談などを通して、意見や提案を確認していきたいとしている。	街の中という立地の面から駐車スペースが限られているが、夜勤者については確保できないか要望が出されており、検討の機会に繋がることを期待したい。また、実施されている職員研修がレベルアップや資格取得に繋がっていくことが期待される。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスによる昇給、昇格と格付け給料表の厳格な適用により、介護職員の処遇改善を着実に実施している。職員の努力が報われるように介護職員全員に平均月34153円の賃金改善を実施し、やりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、6カ月研修、施設内研修、外部研修に参加し、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内研修や勉強会で特養・ショート・デイサービス職員との意見交換の場を月1回設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同一のケアはせず、1人1人に合ったケアを心がけている。また、入居者様から訴えがあった場合は、その都度、意見を取り入れて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時及び担当者会議時に御家族と話す時間を設けている。また、御家族からの意見等にも迅速に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所での生活状況の記録も提供していただき、御家族と初期対応について、相談、連絡を取れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや散歩支援・洗い物などを職員と行い、入居者様一人一人に役割を持って実施しているが、無理強いほしないように入居者様の意向を尊重している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に御家族の意見を聞いたり、散歩や買い物など外出を一緒に行っていたりなど、御家族との交流を持っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の写真を居室に飾ったり、昔の思い出話を聞いたりして、馴染みの関係継続の支援に努めている。	家族や知人の来訪時にはゆっくり過ごしてもらい様配慮しており、階下に降りて散歩等を楽しまれる家族もおられる。モーニングコーヒーを日課とされていた方や、本(絵本・歴史書など)が好きな方の為に、自由に手に取り読めるよう、リビングテーブルに配置するなど、これまでの習慣や趣味などが楽しめる様工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアに出て来て、入居者様同士が交流出来るように、おやつ作りやレクレーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されている時も、御家族と密に連絡を取り、お見舞いに伺ったりしている。また、御家族のフォローや入居者様の分からないことなどに相談にのり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人の思いや希望を把握し、全員で入居者様の希望に添える様ケアプランに追加し、周知している。	職員は普段の関りから入居者の思いを引き出すよう工夫している。「外に行きたい」など自らの思いをハッキリと言葉にされる方には、職員体制を見ながら白川沿いの散歩や工事が進んでいる熊本駅周辺に出かけている。中には思いはあられるものの表現が難しくなった入居者には寄り添いながら話を投げかけ、表情や反応で意向をくみ取っている。家族には面会時や運営推進会議、担当者会議で意向を確認し、プランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の生活歴を把握したり、御家族や入居者様、本人から話を聞き、家と同じよう自由に過ごしていただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を24時間シートで把握し、現状や心身状態を確認している。毎日のケアは本人様の気分や体調によって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、担当者会議を開催し、介護職・看護師・御家族と話し合い、入居者様本人に必要なケアをその都度、検討している。	計画作成担当者は本人・家族の意向を優先したプランとなるよう職員と情報を共有し、入居者の現状を見ながら必要な内容をプランニングしている。医療機関からの入居には、初回担当者会議で家族の意向を十分聞き取り、暫定プランにて対応している。その間の入居者の状況を見ながら、アセスメントから見た新たな情報を総合的に検討し、現状に即したプランを立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルサインや排泄、食事の記録など健康チェックを行っている。入居者様1人1人の気づき、生活の状況を個別記録に記入し、スタッフ間で情報共有し、ケアプランを修正している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診の際の送迎や入居者様の御家族に電話をしたいと訴えがあった場合は迅速に対応している。また、入居者様の状況に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の(どんどや・ぼうぶら祭り・祇園祭り)等に参加し、地域資源を活用している。また、白川沿いなどにも散歩に出かけたり、熊本駅に買い物へ出かけ、入居者様が楽しめるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、御本人や御家族の希望を重視している。緊急の場合や家族が都合が悪い時は病院への送迎も行っている。往診時は看護師が付き添い情報提供を行っている。	入居時に本人・家族の希望するかかりつけ医を確認している。現在は協力医による往診が殆どであるが、家族により他の医療機関での受診も行われている。また、緊急時や家族の対応が困難な場合は、送迎など柔軟に対応している。職員は毎朝や必要に応じたバイタルチェック、日頃の関わりから異常を早期発見し、早めの受診対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、毎日入居者様の体調管理を行っている。その際に職員が看護師に個々の入居者様の情報を提供し、時には、定期外の病院受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院を訪問し、入居者様の経過を病院関係者に尋ねている。また、退院後の生活で注意することなど相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期・看取りに関しては、早い段階から御家族と話し合いの機会を持ち、事業所の方針を御家族、関係スタッフ等で共有し、チームによる支援に取り組んでいる。また、5年目を迎えて初めて看取りをすることが出来、職員も勉強が出来たと思われる。今後も看取りについては、勉強会を開催しながら、職員のスキルアップを目指していきたい。	入居時に重度化・終末期支援に関してホームの取り組みを説明しているが、その時点では家族が判断できない事もあり、必要な時点で今後の方向性などを話し合っている。事前指定書についても家族の意向を確認しながら見直しを行っている。この1年で初めて看取りを経験しており、支援後は本人を偲びユニット会議でカンファレンスを開催している。管理者は普段の関わりを大切に、今後もホームに出来得る日々の支援に努めたいと語っている。	初めての看取り支援でもあり職員の不安もあったと思われる。看取り研修については、個人で外部研修に参加した職員による復講も行われており、今後は職員のメンタル面にも配慮したホーム内研修の開催が期待される。また、看取りを行った家族からも機会があれば、意見や感想などを聞き、研修会で共有することも今後の支援に繋がるとと思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	離設訓練などの緊急時におけるマニュアルも日中、夜間を通して作成し、全施設での訓練を実施し、実践力を身に付けている。また、急変時の対応や感染についても研修に参加し、スキルを身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度の火災避難訓練や消火器訓練等を消防署と協力して行っている。また、入居者様の避難経路や付室への誘導を訓練で確認し、全職員が身に付けることができている。	年2回消防署の参加協力を得て、火災避難と消火器訓練を実施している。8階建ての建物という事もあり、はしご車も出動し、職員が下りる訓練も含まれている。避難経路や防火扉への誘導についても訓練の中で確認している。独歩や車いすなど入居者の移動手段は様々であり、ホーム内は妨げになる物品についても確認しながら掃除を行っている。備蓄についてはリストに基づいた職員間の共有には至っていない。	家族も安全管理については気になる点であり、今後は訓練への参加を呼び掛ける事も一案と思われる。また、備蓄についてはリストをもとに職員間で共有されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応するにあたり個々のプライバシーを尊重し、言葉かけにも、対応の仕方にも注意するように心がけている。	一人ひとりのこれまでを尊重し、本人にとっての居場所や、出来る事、やりたいことをサポートできるようにしている。呼称は苗字や希望、反応などから下の名でも対応している。身だしなみやおしゃれも本人の希望や家族の協力も得ながら実施しており、好みのシャンプーや訪問理容によるカット、家族と美容室へ出かける方もおられる。写真掲示など個人情報の使用は本人・家族の了承を得て行っている。	入居者を尊重した言葉使いや対応の仕方について、周知を図っている。今後も馴れ合いの言葉や幼児語で話していないかなど、勉強会などで振り返る機会を持つ事も良いと思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めるのではなく、入居者様の意向を聞き、個人の好みを把握して提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間は入居者様の体調やタイミングに合わせ、職員の都合で無理強いないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意向を取り入れ、希望に近い洋服を着てもらっている。また、散髪なども御家族の了承のもと定期的に声かけをし、おしゃれができるように対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、メニューを入居者様が見える所に飾り、食事内容も嚙下体操後に伝えている。また、月1回おやつバイキングを行い好みの物を食べてもらい楽しんでもらっている。	調理は外部委託されており、ホームでは主食のご飯を炊き、盛り付けを行っている。行事食と共に、月1回のおやつバイキング(キャラメルプリン・イチゴゼリー・ロールケーキサンドなど)は、種類や盛り付けも入居者が楽しめるよう工夫されており、大好評である。また、モーニングコーヒーを日課とされる方や、進み具合でふりかけの使用、個々に応じた食形態での提供など、好みや身体状況に配慮した食事支援が行われている。	食事前のメニュー紹介においては、ミキサー食の状態を見て行うと異なることもあるため、事前に良く把握して伝えることが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時・入浴後・おやつ時、また、喉が渴いた等の訴えがあった場合は水分摂取をしていただき脱水を予防している。また、食事摂取量や毎月体重測定を行い栄養スクリーニングを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが不十分な場合は職員が仕上げ、一部介助を行っている。また、スポンジブラシにて、口腔ケアを行なったりと、一人一人に合ったケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせてトイレ誘導したり、一人一人に合ったパットの種類を考えたり支援している。また、排泄自立に向けベットの位置を工夫したりしている。	個々の排泄パターンに応じて声掛けや誘導を行っている。殆どの方がリハビリパンツに尿取りを併用されているが、布パンツの方も数名おられ、継続できるよう職員間で状況を共有している。居室にはトイレが備わっており、自分のペースで排泄が出来る事や、失敗時の清拭への対応など、プライバシーに配慮した支援が出来ている。また、居室内のトイレであり特に臭気などが無いよう、職員は小まめに確認を行っている。	今後もトイレ誘導やパット交換など、表情を見たり小まめな声かけを個々の状況に応じて支援されることを期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、看護師へ報告したり、内服薬や坐薬などで排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回実施している。その日の入居者様の体調や気分に合わせて、拒否があった場合は無理はせず、その方のタイミングを大切に、支援している。	入居者の体調などに配慮し、週3回の入浴を基本として実施している。拒否の方もいるが無理強いせず、職員は話術やコミュニケーションを図りながら入ってもらおうようにしている。個室や機械浴が設置されており、身体状況に応じて支援しているが、昨今では機械浴の利用も増えている。	今後も清潔保持に加え、入浴が個々やホームとして楽しみなものとなるよう、職員のアイデアや工夫を活かして支援に努められることを期待したい。また、定期的に徹底した浴室内の掃除により環境を整える事も、気持ちの良い入浴に繋がると思われる。取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明の調整を行い、巡視時間も2時間定期的に行っている。また、その日に体調状態が悪い入居者様については、1時間起きに巡視を行い観察を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の入居者様の薬の内容を理解して、服薬支援している。また、誤薬がないように服薬チェック表の活用と職員間でのダブルチェック、本人様の前での復唱をるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望に合わせて、レクリエーション・散歩・歌声サロン・皿洗い・洗濯物たみ・買い物等の支援を行い、楽しみごと(音楽鑑賞・ビデオ鑑賞)や気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族と外食を楽しんでいただいたり、季節に合わせた地域の夏祭りや初詣など車での外出への支援を行っている。また、白川沿いの散歩や1Fでの花や木をみて、リラックスしたりできるよう支援している。	身近に自然が多くあるという環境ではないが、駅ホームでの買い物や、白川沿い、駅前の森都心に咲く桜見物など個別や少人数で近隣への外出を行っている。また、建物1階に降り飾られた花や観葉植物を見たり、4階交流センターでの歌声サロンへの参加、白川沿いで開催された花火大会を屋上で見物するなど、建物内に移動して外出気分を味わう機会も持っている。法人車両を使い県庁での紅葉を見たり、足を延ばして初詣参拝(健軍神社)、同区のこいのぼり見物などドライブ外出も情報を収集し出かけている。	家族との外出としては、外食やヘアカットに出かける方、花火やこいのぼり見学には参加の声掛けが行なわれている。今後も様々な外出に早めに家族へも参加協力を呼びかけ、一緒に楽しめることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、ほとんどの方が管理できないため、全て御家族が管理している。必要時には、御家族へ連絡し準備してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、お手持ちの携帯を利用したり、電話の前まで誘導するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を入居者様と一緒に作成し、居室やフロアの飾り、季節感のあるスペース作りをしている。また、ホール内やホールの廊下などには、手作りの鶴を入居者様と作り飾っている。	8階建ての建物の最上階にあるホームは、エレベーターが開くと、理念の掲示をはじめ、外出やイベント時の写真が見やすく掲示され、来訪者も足を止めている。各ユニットのリビング食堂は、入居者と一緒に制作した飾り物などを施し、季節感のある空間を作っている。また、テレビや席の配置も安全面や相性などに配慮して検討している。段上がりの畳の間は、高さもあり全員が利用されることはないが、洗濯物たたみや物品の収納に活用されている。ホーム内は季節や入居者に応じて温度調整を行っており、そのことはユニット入り口にも理解を得る掲示がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでソファーに座り、テレビ(DVD)を観たり、雑誌(女性誌)を置いたり、フロアにエアロバイクを置くことで、自由に楽しく過ごせるよう空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から自宅で使用されていた物を居室に置いたり、写真を飾ったりすることで過ごしやすい居室作りをしている。	居室の環境については本人・家族と相談しながら進めており、テレビや家族の写真、椅子など持ち込みの多少はあるが、本人にとって安心できるものが持ち込まれている。就寝はベッドではなく、布団敷きの方、転倒の心配から最小限の物品の配置とするなど状況に応じて検討している。遺影を置かれた方には、起床時と夕食後に手を合わせる事が出来る位置に誘導を行い、安心されるよう配慮している。衣替えや季節外の衣類を持ち帰る家族もあるが、困難な場合は、ホームで管理している。	居室には掲示ボードが備わっており、今後は家族にも呼び掛けながら、ボードの活用等居心地よく過ごせる居室作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、ベットの位置を変更することにより、できることを活かして転倒防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を掲示し、いつでも目に入るようにしている。グループホームの理念はフロアの壁にも掲示し、「笑顔あふれる」場所になるように実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事(夏祭り・敬老会・秋まつり)など。また、歌声サロン、ギター演奏会、三味線演奏会、春日校区の夏祭り、どんどや、地ぞうまつりなどに参加し交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、外部評価の資料なども掲示し、家族などが見れるようにしている。また、入居者様の普段の様子などを写真に掲示したり、春日ぼうぶら祭りボランティア支援などにも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、会議では貴重な意見やアドバイスをいただいている。入居者様の普段の様子を写真に取り入れて視覚的にも分かりやすくし、動画でも敬老会の様子や夏祭りに行った時の様子も確認していただいた。また、民生委員の方々にも、グループホームの様子を今年の8月の運営推進会議の時に見学していただいた。 運営推進会議で地域の行事の提供があり、入居者様の参加ができています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	熊本市ボランティア協会の支援などを受けて、協力していただいている。その他にも緊急時の避難場所としての受入れ施設や熊本市介護保険サポーターポイント事業受け入れ施設にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会に参加したり、手・足の拘束、入居者様に対しての言葉遣いなどを意識し、ケアに当たっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や日々のケア時にボディチェックを行い、虐待を思わせるような傷がないか注意を払い、虐待防止に努めている。また、ユニット会議や身体拘束・虐待防止委員会の勉強会に参加し、職員同士で内容を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者様が数名おられるので、成年後見制度の理解を職員全員で必要性を考えながら支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学や重要事項説明を実施し、その後、個人面談で契約を締結している。入居後、3カ月に1度ケアプランを見直し、その他利用に関しての説明(入居時の施設利用料金について等)を行っている。その際は、御家族に十分納得していただけるように心がけている。また、介護保険改定後の際も説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議、面会時などで、意見・要望があった時には、ユニット会議で議題に挙げて各職員へ周知し、改善を行っている。また、1Fにも意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を月1回必ず行っており、自分の意見や他職員の意見を聞く機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスによる昇給、昇格と格付け給料表の厳格な適用により、介護職員の処遇改善を着実に実施している。職員の努力が報われるように介護職員全員に平均月34153円の賃金改善を実施し、やりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、6カ月研修、施設内研修、外部研修に参加し、知識や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内研修や勉強会で特養・ショート・デイサービス職員との意見交換の場を月1回設定している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同一のケアはせず、1人1人に合ったケアを心がけている。また、入居者様から訴えがあった場合は、その都度、意見を取り入れて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時及び担当者会議時に御家族と話す時間を設けている。また、御家族からの意見等にも迅速に対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所での生活状況の記録も提供していただき、御家族と初期対応について、相談、連絡を取れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや散歩支援・洗い物などを職員と行い、入居者様一人一人に役割を持って実施しているが、無理強いほしないように入居者様の意向を尊重している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に御家族の意見を聞いたり、散歩や買い物など外出を一緒に行っていたりなど、御家族との交流を持っていたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の写真を居室に飾ったり、昔の思い出話を聞いたりして、馴染みの関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアに出て来て、入居者様同士が交流出来るように、おやつ作りやレクリエーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院されている時も、御家族と密に連絡を取り、お見舞いに伺ったりしている。また、御家族のフォローや入居者様の分からないことなどに相談にのり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人の思いや希望を把握し、全員で入居者様の希望に添える様ケアプランに追加し、周知している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する前の生活歴を把握したり、御家族や入居者様、本人から話を聞き、家と同じよう自由に過ごしていただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を24時間シートで把握し、現状や心身状態を確認している。毎日のケアは本人様の気分や体調によって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、担当者会議を開催し、介護職・看護師・御家族と話し合い、入居者様本人に必要なケアをその都度、検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルサインや排泄、食事の記録など健康チェックを行っている。入居者様1人1人の気づき、生活の状況を個別記録に記入し、スタッフ間で情報共有し、ケアプランを修正している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病院受診の際の送迎や入居者様の御家族に電話をしたいと訴えがあった場合は迅速に対応している。また、入居者様の状況に応じて柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の(どんどや・ぼうぶら祭り・祇園祭り)等に参加し、地域資源を活用している。また、白川沿いなどにも散歩に出かけたり、熊本駅に買い物へ出かけ、入居者様が楽しめるような支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、御本人や御家族の希望を重視している。緊急の場合や家族が都合が悪い時は病院への送迎も行っている。往診時は看護師が付き添い情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、毎日入居者様の体調管理を行っている。その際に職員が看護師に個々の入居者様の情報を提供し、時には、定期外の病院受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院を訪問し、入居者様の経過を病院関係者に尋ねている。また、退院後の生活で注意することなど相談に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期・看取りに関しては、早い段階から御家族と話し合いの機会を持ち、事業所の方針を御家族、関係スタッフ等で共有し、チームによる支援に取り組んでいる。また、5年目を迎えて初めて看取りをすることが出来、職員も勉強が出来たと思われる。今後も看取りについては、勉強会を開催しながら、職員のスキルアップを目指していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	離設訓練などの緊急時におけるマニュアルも日中、夜間を通して作成し、全施設での訓練を実施し、実践力を身に付けている。また、急変時の対応や感染についても研修に参加し、スキルを身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2度の火災避難訓練や消火器訓練等を消防署と協力して行っている。また、入居者様の避難経路や付室への誘導を訓練で確認し、全職員が身に付けることができている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応するにあたり個々のプライバシーを尊重し、言葉かけにも、対応の仕方にも注意するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意向を聞き、その日に着たい洋服、飲みたい物等、個人の好みを把握して提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人に合わせて、日々の日常生活を穏やかに過ごせるように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意向を取り入れ、希望に近い洋服を着てもらっている。また、散髪なども御家族の了承のもと定期的に声かけをし、おしゃれができるように対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、メニューを入居者様が見える所に飾り、食事内容も嚥下体操後に伝えている。また、月1回おやつバイキングを行い好みの物を食べてもらい楽しんでもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外にも10時・入浴後・おやつ時、また、喉が渇いた等の訴えがあった場合は水分摂取をしていただき脱水を予防している。また、食事摂取量や毎月体重測定を行い栄養スクリーニングを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きが難しい入居者様には、スポンジブラシやガーゼ等で毎食後、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせてトイレ誘導したり、一人一人に合ったパットの種類を考えたり支援している。また、排泄自立に向けベットの位置を工夫したりしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を確認し、看護師へ報告したり、内服薬や坐薬などで排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回実施している。その日の入居者様の体調や気分に合わせて、拒否があった場合は無理はせず、その方のタイミングを大切に、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や照明の調整を行い、巡視時間も2時間定期的に行っている。また、その日に体調状態が悪い入居者様については、1時間起きに巡視を行い観察を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の入居者様の薬の内容を理解して、服薬支援している。また、誤薬がないように服薬チェック表の活用と職員間でのダブルチェック、本人様の前での復唱をするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望に合わせて、レクリエーション・散歩・歌声サロン・皿洗い・洗濯物たみ・買い物等の支援を行い、楽しみごと(音楽鑑賞・ビデオ鑑賞)や気分転換ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族と外食を楽しんでいただいたり、季節に合わせた地域の夏祭りや初詣など車での外出への支援を行っている。また、白川沿いの散歩や1Fでの花や木をみて、リラックスしたりできるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、ほとんどの方が管理できないため、全て御家族が管理している。必要時には、御家族へ連絡し準備してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、お手持ちの携帯を利用したり、電話の前まで誘導するなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り物を入居者様と一緒に作成し、居室やフロアの飾り、季節感のあるスペース作りをしている。また、ホール内やホールの廊下などには、手作りの鶴を入居者様と作り飾っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでソファーに座り、テレビ(DVD)を観たり、雑誌(女性誌)を置いたり、フロアにエアロバイクを置くことで、自由に楽しく過ごせるよう空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から自宅で使用されていた物を居室に置いたり、写真を飾ったりすることで過ごしやすい居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをつけたり、ベットの位置を変更することにより、できることを活かして転倒防止に努めている。		